

終電車 (1980)

LE DERNIER METRO
THE LAST METRO [米]

メディア 映画

ジャンル ドラマ ロマン스

製作国 フランス

時間 131分

初公開日 1982/04/10

公開情報 東宝東和

【解説】

ヌーヴェル・ヴァーグを代表するトリュフォーが極めて伝統的なフランス映画のムードの中に、その円熟の映画話術を開花させた、なめらかなピロードの手触りのする作品である。ドイツ占領下のパリ。女優マリオンは、南米に逃亡したユダヤ人で、支配人兼演出家の夫の代わりにモンマルトル劇場を切り盛りしていることになってはいたが、その実、夫ルカは劇場の地下に潜み、夜の妻の訪問だけを楽しみに国外脱出の機会を待つ身だった。現在の演出家ジャン＝ルーは独軍にも顔がきき、御用評論家とも親しい。相手役ベルナールはどうもレジスタンスと通じているらしい。そして新作『消えた女』は好評を持って迎えられるが、評論家ダクシアは芝居をユダヤ的と非難した。それを怒ったベルナールは偶然居合わせた彼を殴りつける。劇場存続に賭けるマリオンは愛を感じ始めていたベルナールを遠ざけねばならない。そんな折、いよいよレジスタンスの参加を決意したベルナールが劇場を去ろうとすると、抜き打ちのゲシュタポの捜査。マリオンはベルナールを地下に向かわせ夫を救う。初対面の彼にルカは、妻は君に夢中なのだ、と告げる。その夜、結ばれるベルナールとマリオン……。劇場は解放の日まで執念の上演を続け、ルカは800日ぶりに陽の光を浴びる……。感情を抑えたドヌーヴの能面的美貌がこのサスペンフルな作品を完全に支配している。女優を演じるという難行を完璧にやってのけたのはさすが。占領下にあっても逞しく生活を謳歌するパリの市井の人々が影の主役（彼らが殺到する早い時間の地下鉄最終便が題名となっている）で、その丹念なディテール描写が映画全体に生きてくる具合も絶妙である。

【クレジット】

監督	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
製作	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
脚本	フランソワ・トリュフォー シュザンヌ・シフマン	Francois Truffaut Suzanne Schiffman
撮影	ネストール・アルメンドロス	Nestor Almendros
音楽	ジョルジュ・ドルリュ	Georges Delerue
出演	カトリーヌ・ドヌーヴ ジェラルド・ドパルデュ ジャン・ポワレ ハインツ・ベネント ポーレット・デュボスト アンドレア・フェレオル サビーヌ・オードパン リシャール・ボーランジェ	Catherine Deneuve Gerard Depardieu Jean Poiret Heinz Bennent Paulette Dubost Andrea Ferreol Sabine Haudepin Richard Bohringer